

教育目標

心豊かに たくましく よく遊び 未来へつながる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

コロナ禍の中、3学期には保護者の出入り制限などがあり、子どもの姿が見えにくくなったため、全体的な評価は課題が残る結果になった。しかし、一方で保護者の理解を得ることもあり、落ち着いた教育環境の中、子どもたちは、心豊かに感情表現をできる子どもに育ってきている。安心して自己表現できる環境が、よく遊び込む姿につながり、自分の力を発揮し、満足感や達成感を味わうことにつながった。この幼児期の経験が、将来、他者と共に力を合わせ、未来をつくりだしていく土台となっていくと考える。今年度の成果や課題を振り返り、次年度は主体的に遊ぶ姿に重視しながら、言葉に触れる環境を用意し、言語に関する力が育つよう取組を進めたい。

学校関係者評価 学校関係者による意見・支援策

幼稚園が取り組もうとしていることを積極的に地域に発信し、いろいろな意見を参考にしていけば、より良い方向へ進んでいくと思われる。新しい取組が伝わるのには時間はかかるが、あせらずに、幼小中がある環境を活かし、地域の幼稚園としての役割を担ってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月20日	学校運営協議会サンサンキッズ理事会
最終評価	令和4年3月14日（書面）	学校運営協議会サンサンキッズ理事会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・「安心・安定」した園生活を基盤とし、一人一人が夢中になって遊び込む中で、自己発揮や協同性を育むための環境構成、学年や個々の発達に応じた教師の援助を考え、幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。
- ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方とのかかわりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践をする。
- ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児がかかわる機会を設定する。
- ・未就園児とのつながりが持てる機会を設定する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・評価の記述
- ・アンケート項目

- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
- ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」
- ③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
- ④ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
- ⑤ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」
- ⑥ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしている」
- ⑦ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

中間評価

各種指標結果

・コロナ禍の中で研究保育は外部へ公開することはできていないが、子どもの姿の変容や事例検討など行い、研究会などで発信することはできた。週案の反省・評価は、次週に活かす意識が必要である。

・アンケート項目

- | | |
|------------------------------------|------------------------|
| ① 「幼稚園を楽しいと感じている」 | とてもそう思う 94%・概ねそう思う 4% |
| ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」 | とてもそう思う 89%・概ねそう思う 9% |
| ③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」 | とてもそう思う 91%・概ねそう思う 9% |
| ④ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」 | とてもそう思う 76%・概ねそう思う 24% |
| ⑤ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」 | とてもそう思う 53%・概ねそう思う 38% |
| ⑥ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしている」 | とてもそう思う 89%・概ねそう思う 11% |
| ⑦ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」 | とてもそう思う 72%・概ねそう思う 27% |

自己評価

分析（成果と課題）

・園内研究における実践事例の検討や研究保育を通しての保育の見直し、環境構成、保育の充実等教職員の意識を高めることができた。一人一人の子どもの育ちや課題を共有し、本園の子どもたちの課題に向き合うことができた。また、教職員も自分自身の課題を振り返る意識を持てた。

・保護者アンケートの結果も良好である。自然栽培活動の取組については、昨年度よりも小動物を増やす、種からの栽培を増やすなどし、保護者へも伝えていくことで、昨年度より理解を得られた。

・⑤については、毎年評価が低い項目である。学年によって個人差はあるが、基本的な生活習慣が子どもたちに自信と自立心を育み、自己発揮できる素地をつくることを、保護者へ意識づけし、今後も家庭と連携していきたい。

・⑦に関しては、三密を避けて集まる機会が少なく、教育方針など伝えきれなかったことを反省し家庭との連携を大切に取りながら、より信頼される幼稚園づくりをめざして取り組んでいきたい。

分析を踏まえた取組の改善

・子どもが今以上に心を動かし、試したり挑戦したりするためには、保育環境の工夫、教職員の共通理解の他に、家庭の影響も大きい。特に今年は自立心を育む保育をめざしているのので、今まで当たり前にしてきた援助が子どもにとってプラスとなっているのか等を見直し、チームとして心をつなげて体制を整えていきたい。

・基本的な生活習慣の自立や人とかかわりが心の安定や意欲、自信につながることを踏まえ、家庭との連携を今後も深めていきたいと考える。感染予防に配慮しながら、週案の反省・評価を基に、今後も子どもたちの遊びや生活が充実できるように保障していきたいと考えている。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
- ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」
- ③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
- ④ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
- ⑤ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」
- ⑥ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」
- ⑦ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」
- ⑧ 「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」
- ⑨ 「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」
- ⑩ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしている」
- ⑪ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性や育ちに合わせて丁寧な関わりをしている。子どもの主体性を大切にする公立の保育をこれからも継続してほしい。 ・コロナ禍の中、先生と保護者の関わりが減っている中、これだけ保護者からの信頼と感謝の言葉をもらえているのは素晴らしいことだと思う。例年通りにいかないが、できる限りのことをして子どもたちを楽しませてくれているのがよく伝わる。
---------	--

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
①「幼稚園を楽しいと感じている」	とてもそう思う 78%・概ねそう思う 22%
②「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」	とてもそう思う 80%・概ねそう思う 20%
③「体を動かして遊ぶことが好きである」	とてもそう思う 80%・概ねそう思う 20%
④「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」	とてもそう思う 61%・概ねそう思う 35%
⑤「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」	とてもそう思う 39%・概ねそう思う 57%
⑥「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」	とてもそう思う 41%・概ねそう思う 55%
⑦「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」	とてもそう思う 67%・概ねそう思う 31%
⑧「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」	とてもそう思う 63%・概ねそう思う 33%
⑨「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」	とてもそう思う 61%・概ねそう思う 39%
⑩「教職員は一人一人の子どもを大切に、温かいかわりをしている」	とてもそう思う 88%・概ねそう思う 8%
⑪「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」	とてもそう思う 51%・概ねそう思う 45%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <p>・コロナ禍で制限はあったが、子どもたちの遊びや生活を保障するために、教職員が一丸となって園運営を進めることができた。概ね幼稚園の保育に理解をいただける評価ではあったが、⑤身の回りの始末や⑥自分の思いを話す、友達の話の聞くといった子どもが自立や自己表現、他者への思いやりへと向かう項目では課題を感じた。また、保護者自身の思いが子どもの育ちに影響を受けることもあり、教職員が自分自身の保育のあり方を考えることとなった。⑨の幼稚園兄弟との関わりでは、例年高い評価をいただくが、今年度は学年の交流ができず、残念な結果となった。⑪園の教育方針や子どもの遊びや生活を伝えていく取組では、ICTを活用するなど新しい取組も試みた。これからも保護者や地域への伝達の工夫や努力をしていきたい。保護者や地域の方々の信頼があつてこそ、質の高い保育はできることを自覚し、幼児教育の重要性について、保護者や小学校、地域へと発信することを次年度も力を入れていきたい。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>・夢中になって遊び込む姿を大切にすることで、自分の思いを表現したり、人との関わりを深めようとしたりすることに育ちをつなげることができた。しかし、集団の中であるという自覚や自分も人も大切にする（持ち物も含めて）、相手の思いや気持ちを押し測ろうとするなど、規範意識や道徳心といった心の育ちを深めることが難しかったと考える。今後、保護者への啓発とともに、保育の中でも丁寧に見取り、指導していきたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>教職員が負担にならないような取組を考えながら、子どもたちを大事に思っている人たちが、地域の中にはいっぱいいることを知ってほしいと思う。</p>

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する小学校との交流活動の継続、連携・就学前、就学後の連絡会・保育、授業参観・幼小中合同研修・作品展見学などを通して互いの教育への理解を深める。 ・「就学支援シート」の活用、「個別の指導計画」の作成・引き継ぎ

- ・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、自立に向かおうとする気持ちを育む教師の援助や環境構成を考える。「学びに向かう力」を育てる保育を推進し、小学校へつなげる。
- ・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、創造する楽しさを味わうなど、言葉や文字、数量に対する感覚の基礎を培う。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し
 - ・接続期を意識した5歳児教育課程の検討
 - ・小学校との交流や施設利用状況、交流保育の事前事後研修の実施
 - ・「親子で絵本！」の活用状況
 - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園が小学校・中学校とのつながりを大切にしている中で、子どもの育ちが見られる」
- ② 「子どもは絵本を読むことが好きである」

中間評価

各種指標結果

- ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した保育が教員に定着してきている。
 - ・接続期を意識した5歳児教育課程の検討、小学校との交流や施設利用状況、交流保育の事前事後研修の実施は、コロナ禍の中で思うように進みにくい、教員同士のつながりは意識している。
 - ・「親子で絵本！」の活用状況としては、各家庭において差が見られる。
 - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園が小学校・中学校とのつながりを大切にしている中で、子どもの育ちが見られる」
とてもそう思う 69%・概ねそう思う 29%
- ② 「子どもは絵本を読むことが好きである」
とてもそう思う 72%・概ねそう思う 26%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・年間計画を立てて見通しをもって取組をしていきたいと考え、今年度は小学校との打ち合わせを行うことができた。幼稚園での収穫物を校長先生に子どもと届けに行ったり、小学生の運動会の取組を参観させてもらったり、児童との実際の交流は難しかったが、隣接し、自分たちが通う小学校へと思いをつなぐ機会はもてた。
- ・夏季にある幼小中合同研修にも参加し、同じ地域の子どもたちの良さや課題についても教職員間で共有することができた。
- ・学びに向かう力を幼児期から育て、学校へとつないでいることを意識し、隙間の時間を使って、本園の子どもたちの姿を小学校へ伝えていくようにしている。
- ・アプローチカリキュラムとしての週案の作成については、見直していきたい。
- ・今年度は毎週の貸出し以外にも、夏休みの貸出日を設け、親子で絵本に親しむ機会を増やした。定着してきているが、子どもが自分で読むだけでなく、お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり、心が育つことを繰り返し伝えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえ、より接続期を意識した5歳児後期の教育課程を編成し、週案の内容を充実していく。
- ・感染予防を意識しながら、校庭の活用や教職員の交流など、より安心感をもって子どもたちが就学に向かっていけるように心をつないでいく。
- ・幼稚園の保育の様子を小学校の先生方や地域の方に参観していただく機会を設け、幼児期の子どもの発達や幼稚園教諭の環境構成や援助についてより理解を深めてもらう。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・連携のエピソード検討
 - ・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討
 - ・『親子で絵本』の活用度
 - ・校長先生による読み聞かせ実施
 - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」
- ② 「子どもは絵本を読むことが好きである」

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中とこれだけ近くにある学校がなかなかないので、この立地条件を活かして、今後も地域の子どもたちのためにつながりを持ってほしいと思う。地域の幼稚園として大切にしてほしい。
---------	---

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携のエピソード検討 ・前期との比較, 検討を行なうことで取組の改善を検討 ・『親子で絵本』の活用度 ・校長先生による読み聞かせ実施 ・アンケート項目 <p>①「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」 とてもそう思う 69%・概ねそう思う 31%</p> <p>②「子どもは絵本を読むことが好きである」 とてもそう思う 63%・概ねそう思う 33%</p>
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続は、年間計画を立てて見直しをもって取組をしていきたいが、感染予防のため、実現できないこともあった。小学校のグラウンドに年長児が走りに行ったり、幼稚園で採れた収穫物を校長先生に届けたり、小学校で育てた花の苗をいただいたりなど、児童との交流は難しかったが、隣接し、自分たちが通う小学校へと親しみをもち、思いをつなぐことはできた。 ・夏季にある幼小中合同研修にも参加し、同じ地域の子どもたちの良さや課題についても教職員間で共有することができた。 ・幼稚園での育ちを小学校の先生にも伝達し、発達を促すために必要な幼児期の経験の大切さを改めて見直すとともに、小学校での指導のあり方を知る機会となった。 ・アプローチカリキュラムとしての週案の作成については、より深く見直していきたい。 ・親子で絵本に親しむ機会が定着してきているが、子どもが自分で読むだけでなく、お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり、心が育つことを繰り返し伝えていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」をもとに、幼稚園の保育を小学校側にも見てもらい、子どもに育まれている遊びの中の学びを、互い校種の視点から見つけるなど、コロナ禍でも、できることを工夫し、提案し、小学校と共有できるようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍の中での連携について、よい方法を考えてほしい。絵本の読み聞かせをさせてもらったことは、とてもうれしく、また方法を考えていきたい。</p>

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育指導計画の作成, 実践, 見直しをし, 預かり保育における遊びの多様性を図る。 ・園生活が充実し, 無理なく過ごせるように興味ある遊びを実現できるような環境づくりや支援をする。 ・特に早朝預かり保育では, 温かい声掛けを心がけ, 預かり保育が拠り所となるように保護者との連携を深める。 ・子どもにとって安心できる場となるように, 担任や教職員が緊密な連携を取る。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち (異年齢のかかわりなど) ・アンケート項目から <p>① 「にっこり広場 (預かり保育) に喜んで参加している」</p> <p>② 「園が早朝預かり保育をすることで, 必要なときに利用できる安心感がある」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数に関しては、早朝預かり保育を始めたことによって朝の利用者も毎日あり、保護者の必要性が見えてきた。緊急事態宣言中には、預かり保育を控える家庭もあり、利用者数としては多くはなかったが、異年齢のかかわりで年下を思いやるなどの姿は見られた。 ・アンケート項目から <p>① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p> <p>② 「園が早朝預かり保育をすることで、必要なときに利用できる安心感がある」</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育（早朝を含む）をすることによって、保護者の就労やゆとりの時間への意識が高まり、働きながらも幼稚園に在園できるという子育てのパートナーとしての役割は増えてきている。保護者の支えにはなっているが、子どもによっては、「早く家に帰りたい」と思っている子どももいるので、その思いに寄り添いながら、一人一人が満足したり楽しんだり受け止められるなど、丁寧な関わりをより意識していかなければならない。 ・ゆったりと自分の好きな遊びができる時間なので、保育中には見られなかった集中力や発達の伸びが見られることもある。保育と預かり保育が連動していくことの大切さを感じる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい遊具や遊び方を取り入れ、毎日の過ごし方に変化をつけて、預かり保育が子どもにとって新鮮で楽しい時間になるように工夫する。 ・担当の教員と担任、保護者が連携を取りながら、子どもの思いに寄り添い、子どもが安心して過ごせる場づくりをしていく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど） ・アンケート項目から <p>① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p> <p>② 「園が早朝預かり保育をすることで、必要なときに利用できる安心感がある」</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育を始めたり、業者弁当（うさちゃん弁当）を取り入れたりし、働いている保護者のニーズに添うようにしているが、浸透するのにはある程度の時間が必要だろう。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど） ・アンケート項目から <p>① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p> <p>② 「園が早朝預かり保育をすることで、必要なときに利用できる安心感がある」</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が増え始めていたが、3学期にはコロナの影響を受けて減少する。また、子どもの成長と共に就労する保護者が増え、新2号認定の子どもが増えた。試行実施していた早朝預かり保育が本格実施となるが、地域の方にも伏見板橋幼稚園の預かり保育の内容について知ってもらい、子育てをしている方にとって居心地の良い幼稚園になるように努力していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の内容の見直し（遊具のリニューアル、環境構成など）と保育との関連性を見る。 ・他学年の交流の場となる場であり、良さも多いが、コロナ禍での感染症予防について常に意識し、見直していく。 ・より預けやすい取組となるように、教職員で幼稚園の役割について理解し、協力していく。 ・教職員の時間外勤務の超過を減らすなど。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>協力できることを一緒に考えていきたいと思う。</p> <p>早朝預かり保育が始まっていることが浸透し、利用が増えることを願っている。</p>

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児ぷちたんぽぽ組（２歳児親子）をつくり、乳児から幼児への発達に応じた遊びや場を提供する。 ・子育ての楽しさを共有したり、乳幼児期の発達を知る機会にしたりする ・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する ・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。 ・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。 ・季節の絵本の話の聞いたり、飾りづくりをしたりするなど保護者のつながりや感性を豊かにする機会を設ける。 ・社会福祉協議会「福ちゃん組」における連携、及び地域子育てステーション事業における連携をする。 ・地域の幼児教育の場として、幼児期に育てたい力について発信できるようにする。 	
（取組結果を検証する）各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ・未就園児保護者の話の内容から 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数（登録）は、現在 58 組である。 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子、今年度はコロナ禍で控えている。 ・未就園児保護者が利用しながら、在園児の遊びや生活の様子を垣間見たり、教職員の雰囲気を感じ取ったりすることができ、利用している親子にとっては、ホッとできる場になっている。 ・少しずつではあるが、0歳の乳児も増えてきて、その成長を見守ることができ、また、園児の姿から保護者に幼児期の発達を知ってもらう機会となっている。 	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、2歳児親子ぷちたんぽぽ組をつくったことにより、就園前の親子が同学年の子どもや保護者と触れ合い、つながりをもつ良い機会になったのではないかと考える。来年度に向けて、日数や内容などを検討し、子育て世代が心温まり、子育てが楽しいと思える場にしていきたい。 ・小規模保育事業の先生との話し合いをもつことができた。地域の子どもを育てる者同士、思いを共有することができた。
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中であるので、日数を増やしたり、未就園児と在園児がかかわる機会を設けたりできなかったもので、在園児と触れ合う機会をもう少し考えたい。幼稚園説明会は行ったが、懇談会などで子育ての悩みや入園に関する質問に応える場をつくるよう努めたい。 	
（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ・未就園児保護者の話の内容から ・小規模保育事業との交流
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかに園舎の周囲にポスターや未就学の予定表が貼ってある。地域のお年寄りなどは、それを見るのも楽しみにしている方もある。枯れていた木々がなくなり、東側から園庭がよく見えるようになった。子どもたちが遊んでいる様子がよく見える。地域の子どもたちの利用者が増えてほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数 こっこ組 57 組・ぷちたんぽぽ組 16 組 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 語り合いは、Zoom で年 3 回実施 ・未就園児保護者の話の内容から ・小規模保育事業との交流 小規模保育事業と協定書を結ぶ
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児こっこ組（0～4 歳児親子）とぷちたんぽぽ組（2 歳児親子）として、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを感じ、仲間をつくる場とした。今年度は感染予防で 2 月からは開催できなかったが、2 学期までは参加者が増え、楽しんでもらう場となった。HP やチラシの効果もあったと思うが、お家の人同士の口コミも大きいと考える。 園長自らが動き、これからもより良い未就園児の取組を考えていきたい。母子を必要以上に離さないことが、将来自立へと向かう近道であることを園児の育ちからも実感しているが、まだまだ本園の保育の良さを実感してもらえるように、新しい取組を考えていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぷちたんぽぽ組（2 歳児親子）に関しては、月 2 回の取組であったが、来年度からは月 3 回は実施したいと考えている。コロナの影響を考え、感染予防対策を引き続き取りながら、より前向きに考えていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>入園数が横ばいであるが、まだ安心しないで取り組んでほしい。</p>

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「板橋祭」や「親と子の秋の集い」への参加。 ・豆ごはんやカレーパーティーの買い物体験（年長児）。 ・女性会によるお茶会体験や、地域のお年寄りとの触れ合い交流（年長児）。 ・「生き方探究・チャレンジ体験」や幼中交流保育における中学生との交流。 ・学校運営協議会を中心とし、幼児教育への理解、相談、協力を得られるようにしていく。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容 ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 <p>①「地域とのかかわりを大切にしている」</p> <p>(後期)「子どもは地域行事(板橋祭・親と子の秋のつどい等)に喜んで参加している」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容としては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置で全くできなかったものもある。 ・地域での取組が今までのようにできないことに関しては、保護者からも理解を得られている。 ・アンケート項目 <p>① 「地域とのかかわりを大切にしている」 とてもそう思う 69%・概ねそう思う 29%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆ごはんやカレーづくりの材料を子どもたちと地域に出て買い物をする、３歳児が地域の公園に出て小規模保育園の子どもたちと出会うなど、小さなことで地域の方に守られて生活をしているのだという意識を子どもたちがもてるように、保育の中に活かしていった。 ・コロナ禍の中で、今後地域との触れ合いがどのような形になるのかわからないが、ずっと引き継がれてきた「地域の子どもは地域で育てる」思いは大切にし、人と人とのつながりは絶やさないようにしていきたい。また、秋・冬に向けて、感染予防対策に留意しながら可能なものは行っていきたい（お茶会・中学生の手作り絵本を頂き、親子でお礼の手紙を書くなど）
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や地域の方に運動会を参観していただくことができなかったので、動画を撮影し、編集したものを理事会の中で視聴していただくなど、幼稚園の取組や子どもの姿を知って頂く機会を設ける。 ・預かり保育の時間を利用して、学校運営協議会の方に絵本の読み聞かせや手遊びを行っていただき、直接子どもたちとかかわる機会や保育参観などに来ていただく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容 ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 <p>① 「地域とのかかわりを大切にしている」</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも感染予防対策に気を付けながら、協力できることはしていきたいと思います。お年寄りとの交流などがしくくなったのは、非常に寂しいことである。

- ・交流の回数や内容としては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置で全くできなかったものもある。
- ・地域での取組が今までのようにできないことに関しては、保護者からも理解を得られている。
- ・アンケート項目

とてもそう思う 69%・概ねそう思う 29%

分析（成果と課題）

分析を踏まえた取組の改善

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

① 「地域とのかかわりを大切にしている」

学校関係者による意見・支援策

最終評価

- ・ 交流の回数や内容
- ・ 子どもの姿や保護者・地域の方の声
- ・ アンケート項目

とても思う 69% ・ 概ねそう思う 31%

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>思い切った取組ができることを願っている。</p>
---------	---

（５）教職員の働き方改革について

重点目標	○日々の教育活動を見直し、幼稚園における「働き方改革」を進め、より一層の保育の質向上を図る
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日ノー残業デーとする。 ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の１８時以降の電話対応は控える。 ・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。 ・早朝預かり保育実施により、時間外勤務が増えることがないように全教職員が意識する。 ・働き方改革に関する話し合いや研修を行う。 ・園内ＯＪＴを通じて、若手教員を支援する体制を整える。
（取組結果を検証する）各種指標	<p>① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</p> <p>② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</p> <p>③ 「若手教員に対する園内研修の実施回数など」</p>

中間評価

各種指標結果	<p>① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 管理職を除き、時間外勤務超過をしないように目標を概ね達成できている。</p> <p>② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 土日や長期休業などを活かしてリフレッシュし、日々の保育を生き生きと進めることができている。</p> <p>③ 「若手教員に対する園内研修の実施回数など」は、教職員みんなで若手を育成しようという意識をもち、良さを引き出そうとしている。役割を担い、意識が変わってきている。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、感染予防で行事を控えることになったり、出張を控えたりすることになり、行事内容やもち方の見直しをすることができた。時間にゆとりはできたが、三密を避ける保育、消毒作業の負担、健康管理などもあり、緊張感は続いた。 ・校務支援員や学校支援員の存在が非常にありがたく、園運営がスムーズにいつている。 ・今年度から早朝預かり保育をするようになったが、時間外勤務を控えようとする意識が高まり、教職員に段取り良く業務を進めようとする姿勢が見られる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、行事内容やもち方の見直しを図る。 ・朝の職朝の回数を減らす（週２回→１回） ・検討事項の精選や事前事後伝達、時間を決めるなどし、会議時間の短縮と効率化を図る。 ・担任業務の繁忙を校務支援員に協力してもらうことで、分散化することができるよう今後もしていく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</p> <p>「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</p> <p>「教職員の年休取得状況」</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・まん延防止等重点措置の中、休園や学級閉鎖の対応に追われることもあったと思う。まだ、これからは気を抜けないと思うが、教職員も体調には気を付けて過ごしてほしいと思う。
---------	--

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 概ね良好</p> <p>「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 概ね良好</p> <p>「教職員の年休取得状況」 必要な時は取得している</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の出退勤システムの記録を見ることで、時間外勤務の時間数を意識して勤務するようになりつつある。 ・コロナ禍で健全に勤務をすることが難しいこともあったが、今までの保育のあり方を考え、一人一人が働き方を見直し、全教職員で乗り越えていくことができている。 ・全教職員が必要と考える年休を取得することができた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は試行実施だった早朝預かり保育を、来年度は本格実施することになり、教職員の勤務時間についても、今年のように意識していく必要がある。長く続け、全教職員で乗り越えていくことを考えていきたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>コロナが落ち着き、教職員に負担がかからないようになることを願っている。</p>